

医療・介護・福祉・行政の多職種が連携し合い、住民の方が
住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けられるよう必要な
体制づくりに取り組んでいます。



薩摩郡医師会在宅医療相談支援センターだより

ひまわり



第46号 令和7年12月
編集・発行 薩摩郡医師会在宅医療相談支援センター
TEL(代表) 0996-53-0326(内380)
(直通) 0996-53-4711(FAX兼用)

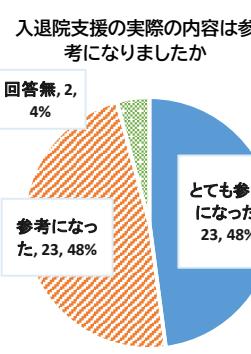
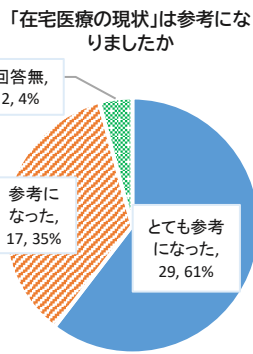
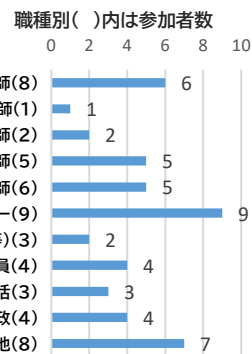
令和7年度在宅医療・介護連携推進多職種意見交換会(R7.12.2) 意見交換テーマ:「一人暮らしの人が自宅で死にたいと言ったら」



令和7年12月2日 薩摩郡医師会病院 2階会議室



令和7年度 薩摩郡医師会在宅医療・介護連携推進多職種意見交換会アンケート結果
参加者:会場 53名 アンケート回答:会場 48名(90.5%)



【ご意見・ご感想(一部ご紹介)】

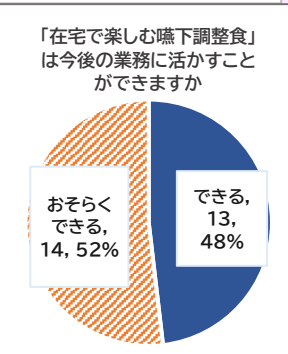
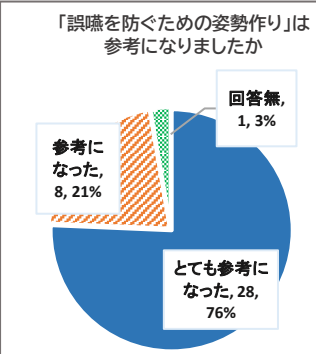
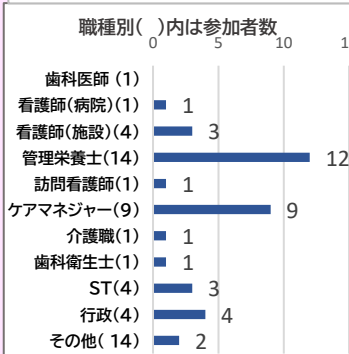
- ・訪問診療を普段されている方々のディスカッションは流石にクリティカルな意見が多いなと感じました。勉強になりました。(医師)
- ・死にたいという気持ちの真意を確認する。家族に迷惑をかけたくないなどのSOSではないか。自宅で亡くなるとしても、様々な人達(多職種)に頼りながら残りの日々を過ごすべきである。(医師)
- ・一人暮らしの方が自宅で亡くなる(最期をむかえる)→その人の本音、なぜ?、とても大切。無理と私たちは固定観念で見る事も多いですが、みんな(多職種)で良い方法もあるかも?考えさせられるケースです。(訪看)
- ・和やかな感じで、グループディスカッションもできて良かったです。施設や事業所、病院、関係機関で、担当者の変更等があると連携が行いにくくなったり、良くなったりするので、同じ様に連携が図れる様、周囲への周知、自分達の学びを深める必要があると思います。(ケアマネ)
- ・本人の本当の気持ち、本心をくみ取る、知ることが大切という意見を聞き、その方を良く観察する、知ろうとする気持ちが良い看護やケアに繋がるんだと気づかされました。(その他)
- ・1人で自宅で死にたいを叶えるには、充分な話をしてご本人の気持ちやご家庭の覚悟を確認しないといけないと思う。この聞き取り難しいですが・・・(MSW/相談員)
- ・こういう問題を考えるいい機会となりました。(医師)
- ・本人様の人生のしまい方、ACP、あらためて大事だと感じました。日頃、利用者様に関わる様にその人の人生観、最期について、聞き取ることも大切と思いました。(ケアマネ)

令和7年度第2回さつまネット研修会(9/27) 「在宅で楽しむ嚥下調整食」「誤嚥を防ぐための姿勢作り」

在宅医療・介護連携推進事業
令和7年度 第2回さつまネット研修会



第2回さつまネット研修会「誤嚥を防ぐための姿勢作り」「在宅で楽しむ嚥下調整食」
アンケート結果 参加者数: 54名 アンケート回収数: 37名 (回収率: 68.5%)



【ご意見・ご感想(一部ご紹介)】

- ・さつま町で業者のブースが設けられていて、盛大な研修会でした。吉永先生の実際の訪問栄養指導での経験や黒木先生のお話が聞けて良かったです。
- ・グループワークで濃いトロミを作って飲んだ際の飲みにくさを体験して濃ければ良いというわけではない、また、少しトロミが付いただけで、誤嚥しにくい事が分りました。
- ・とりみ剤のつけ方で、とりみ具合の調整が難しいことで、誤嚥、窒息の危険があったので、今日研修で学ばせてもらった事を思い出して業務を行いたいです。
- ・スライスゼリーは飲み込み易いこと、クラッシュするとバラける事が食べてみて分かりました。
- ・嚥下の基本的なところから、現場での気づき等知ることができて良かったです。
- ・試食が体験出来て良かったです。介助で角度が違う事も大変分かりやすかったです。
- ・在宅で介護をされているご家族の方に、こういった実際の介護食を口にする機会が持てると良いなと思いました。講演の中で、食事＝楽しみ、幸せといったプラスなことであるべきなのに、食事の形態や嚥下機能の低下で、それがなくなり、摂取に繋がらないのかなあと感じました。

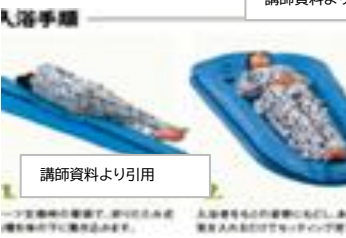
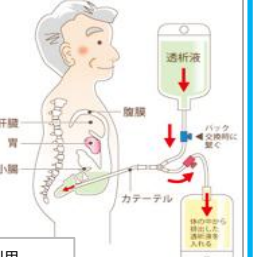
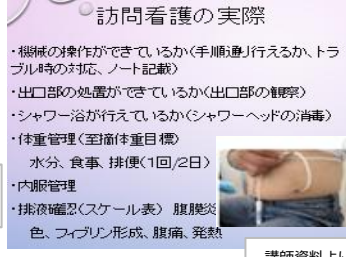
Merry Christmas

【センターより】

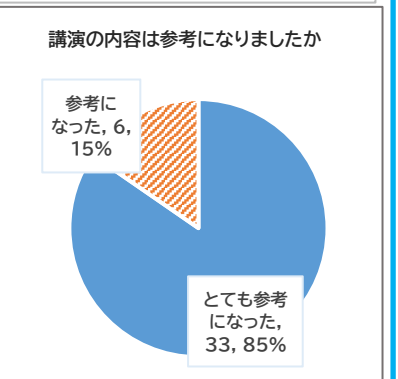
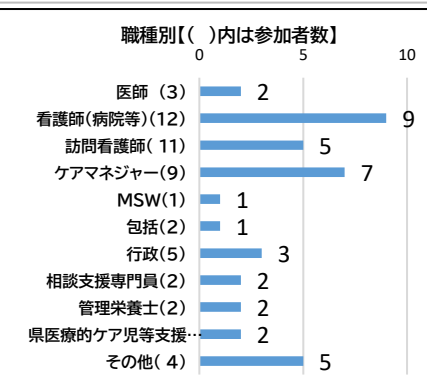
今年度のさつまネット研修会の企画は作業部会の皆様のご協力の下、とても充実した内容で開催できました。また講師を務めて頂いた皆様にはお忙しい中での資料作り等、ご苦労されたかと存じます。重ねて厚く御礼申し上げます。
在宅医療・介護連携推進多職種意見交換会にも様々な職種の方にご参加頂きまして有難うございました。少し時間が足りないと感じました意見交換会の時間配分につきましては次回以降の課題として修正していく所存でございます。
今年1年、充実した会になりましたのも、皆様のご協力、ご支援を頂いたからだと思っております。来年も引き続きどうぞよろしくお願い致します。
皆様にとりまして来年も良い1年になります様、お祈り申し上げます。



令和7年度第3回さつまネット研修会(10/23) 「在宅での入浴支援～コーシン浴について」 「訪問看護での腹膜透析の現状」「小児の看取り事例について」



第3回さつまネット研修会「訪問看護ステーションの取組」アンケート結果
回収数:会場29名/32名 オンライン10名/20名 (回収率72%)



【ご意見・ご感想(一部ご紹介)】

- ・訪問入浴車での入浴の対応が難しい中、コーシン浴で対応してもらえたら利用者様の「入浴したい、お湯につかりたい」という気持ちに応えてあげることができるので、今後つないでいけるようにしたいと思います。
- ・小児の在宅看取りに際し、多職種の支援が入り心強かったとの事。多職種の介入について、学びとなりました(どこの窓口か? 障害コーディネーター等学びになった)
- ・小児の看取りは、子供さんが穏やかな最期を迎えられた様子が伺えました。お友達や学校とつながる所が、在宅の大きな強みだと思いました。
- ・「訪問看護での腹膜透析の現状」では、バイタルリンクやMCSなどのICTを活用し、血液透析に頼らずとも住み慣れた地域での生活が継続されている事を知ることができました。特に飫島での腹膜透析における訪問看護師の活躍に感銘を受けました。
- ・医療的ケア児(者)の退院、また、疾患の進行により急激に医療的ケアが必要になった場合の医療的ケア児等コーディネーターの介入は課題となっています。市町村での体制整備が重要ですが、このようなネットワークが構築され顔が見える連携は貴重であると思いました。